

分科会等での主な意見をふまえた対応

計 画 ペー ジ	分科会での意見等とその対応	計画 反映
P56	後期計画の目標値の設定について 「参考となる指標（参考）」「市独自の指標（独自）」の目標値については、比較する国の目標値はなく、本計画策定時の市目標値を継続することを追記	○
P57	早寝早起きという聞き方から、時間を指定した就寝 22 時以降の割合となり、具体的となったが、指標として 22 時は遅くないか。 → 引き続き、起床・就寝時間の遅い場合は個別対応とし、指標としては、加賀市だけでなく県・他市と比較できる就寝 22 時以降の割合とする。県実績を参考に追記	○
P58	妊娠期から母子の健康を考えた生活習慣を整える支援の必要性について図で追記	○
P60	母子健診情報のデジタル化とスマートフォン等で閲覧できるアプリの導入推進について追記	○
P33・34 P62	学童期の健康を考えると、SNS やメディアコントロール対策も重要ではないか。 → P33・34 での市内小中学生の自分専用の携帯電話・スマートフォン等の所持率や使用時間の実態アンケートの図等を追記 P62 には学童期の取組として教育委員会での“非行・被害防止講座”など、学童期以前の乳幼児期からのスマートフォン等との付き合い方（使う場合は時間を決めて約束するなど）の啓発の取組を追記	○
P66	発達障がいの早期発見・早期対応について → 子どもが家庭や集団の場などで過ごす様子から、過ごしづらさやかかわりづらさがないか、その子の困り感について、健診・相談で保護者に状況を確認し、対応している。健診・相談は一場面でもあるので、日々の姿を知る保育園等との連携や、必要な人には療育相談・支援を行うことも育成相談センターへの紹介をしている。発達状況の確認が必要な場合は、南加賀保健福祉センターでの小児科医が出務する幼児精神発達相談を紹介している。	
P68・69	体罰や暴言、ネグレクト等によらない子育てをしている親の割合とあるが、どのように判断するのか。 → 国の調査方法にあわせて、乳幼児健診の問診として確認している。ここ数か月の間に、家庭で「しつけのしすぎがあった」「感情的に叩いた」「乳幼児だけを家に残して外出した」「長時間食事を与えなかった」「感情的な言葉で怒鳴った」「子どもの口をふさいだ」「子どもを激しく揺さぶった」のようなことがあったかの問いに対し、いずれも該当しない者の割合を示している。調査としてだけでなく、個別に状況を聞き取り、健診場面が子育ての困り感の相談の機会となるようにしている。	
P55~69	新規・拡充する取組については今後わかりやすくマークを追記	○